

第12回 日本手術看護学会 近畿地区大会の開催にあたって

“手術看護の可能性が広がるパラダイムシフト” ～支える・つなぐ・つなげる力で手術看護のさらなる発展を～

日本手術看護学会 近畿地区大会 大会長 佐々木 光隆

現在の日本は、被災地の復興や原発の安全性確保などの喫緊の課題に最優先に取り組みとともに、国民生活に大きな影響を与えている少子高齢化、経済のグローバル化、慢性的な国内需要不足といった社会変化に適切に対処していくことが重要となっています。

医療現場においては、高齢化や技術革新の進展により大きな変化を迎えており、これまでの概念が大きく変わるパラダイムシフトの渦中にあると言えます。2019年度末からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックは、社会・経済・医療に大きな影響を与えただけでなく、私たちの働き方や生産活動における効率性と生産性のあり方を見直す契機となりました。このような厳しい社会情勢の中、医療サービスの質は高いと評価されていますが、一方で人材不足や医療費の高騰、そして高齢化社会による医療需要の増加といったさまざまな課題にも直面しています。これらの困難な状況を、現代医療におけるパラダイムシフトを新たな機会と捉え、急速な変化や進化に柔軟に対応しつつ、手術看護の新たな可能性を切り開いていくことが求められているのではないのでしょうか。

私たち手術室看護師は「支える・つなぐ・つなげる力」で、多職種連携・チーム医療の要として果たすべき重要な役割を担っていく必要があります。これからの手術看護の可能性を広げるためにも従来の常識にとらわれすぎず柔軟な視点を持ち、新たな価値観や概念を育んでいくことで、より質の高い医療提供が実現でき更なる手術看護の発展につながると考えています。

本地区学会が周術期看護を考えるきっかけとなり、皆様の施設で実践されている「周術期看護」をさらに向上させる一助となることを願っております。

また、本地区学会の開催にあたり、ご支援、ご指導を賜りました諸先生方、企画や準備にご尽力いただいた滋賀ブロックの実行委員長をはじめとする各役員、近畿地区各ブロックの役員をはじめ会員各位、ご協賛いただきました企業様の皆様に厚くお礼申し上げます。